

令和3年度 第2回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨

第2期田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン集（令和4年度）（案）について

1 雇用の創出・就労促進

(1-1 創業支援)

- ・「中小企業者総合支援事業」の説明文について、「第二創業」という言葉がわかりづらいので、表現を見直ししてはどうか。
- ・「中小企業者総合支援事業」について、市内の空き店舗を活用して新たに商業を営もうとする方や、市内で創業する方に対し、改装費や備品購入費などの一部を助成することは、良いと思う。

(1-4 日本一の農業産地のインパクトを生かした新たな農畜水産業の展開)

- ・「脱炭素農業とスマート農業の推進」について、燃油高騰やカーボンニュートラルの観点で優先度は高いと感じている。実現に向けて、ICT教育や革新技術の導入、また（1-2 企業立地の推進・三河港の振興）にも記載があるようなビジネスマッチング等も取り入れながら、広く若者の農業参画の手段について検討してはどうか。
- ・ベジエール渥美としては、例えば移住された方等が生産する作物や製品(商品)について、その魅力を外に向けてPRすることで、協力ができればと思う。

(1-5(4-5) 観光地域づくり)

- ・蔵王山展望台2階売店が、今年の風車撤去工事後、閉店したままである。風車撤去工事中は閉店せざるを得ないが、工事終了後も閉店したままである。4月下旬の再開を目指しているようだが、田原市のトップ観光地の売店であり、安定継続を望む。人が居ると居ないでは、安心感、楽しさ等は全く違う。

(1-6 道の駅の魅力向上)

- ・「JNTO 登録等によるインバウンド対応」について、「JNTO」という言葉がわかりづらいので、注釈を付けてはどうか。
- ・道の駅伊良湖クリスタルポルト（以降、クリスタルポルト）の動向を気にされている市民は多いと感じる。ロケーション的にもファミリー層の需要の高さを見据え、クリスタルポルトを起点に農業体験など6次産業化の発展にも繋がるような仕掛けや、将来的に話題性のある宿泊施設の誘致等も検討いただくと、市外や他県からの観光も増えるのではないかと。
- ・クリスタルポルトのリニューアルに伴い、フェリーのチケット売り場は、館内に戻す予定なのか。フェリーに乗る目的の方と、道の駅目的の方の駐車場が混在すると、駐車場に停めることができず、時間が決まっているフェリーチケットが買い難くなる恐れがあるので、リニューアルの際も現状のチケット購入の方法は引継ぐなど、目的別の車両ルートを検討してほしい。また、クリスタルポルトの利用促進に向けて、PRには全力で協力したい。

- ・「収益が見込めないから休館する」、「再開はしたが今後も採算状況によっては休館の可能性はある」そんなクリスタルポルトを田原市が購入してくれたことは、とても嬉しい。クリスタルポルトの存在は、単独のひとつの“点”としての採算だけで評価されるものではなく、その存在自体が観光、物流、住民心情等に影響する。田原市の所有となったことは、存在継続に対する安心感を生む。

2 定住・移住促進

(2-1 若者・臨海企業従事者等の市内定着・定住・移住促進)

- ・「お試し移住による移住促進」について、どのような方をターゲットとするのか。リモートワークの充実など、働き方も多様になってきているので、雇用創出の観点と合わせ、働き方など移住希望者のニーズに合わせた選択肢の持てる住居支援が必要ではないか。加えて、車以外での市外アクセスの充実や、需要が高まりだしている自転車に安心して乗る事のできるインフラ整備など、移動手段の不便さをネックに感じさせない対策もお願いしたい。

(2-3 (4-3) 空き家活用推進)

- ・「空き家・空き地バンク活性化事業」について、空き家の所有者の特定ができず、賃借や売買に結びつかないケースがある。所有者の特定ができれば、賃貸や売買に結びつき、それが定住・移住促進につながる。

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現

(3-1 結婚・出産支援)

- ・令和4年4月1日からの診療報酬改定に伴い、不妊治療が保険適用となるが、治療の選択によっては「混合治療」扱いになる課題に対する前向きな対応策を検討いただきたい。加えて「混合治療」における「先進医療」の部分について、3割負担分や回数上限に対する補助も検討いただけると大変助かる。
- ・不妊治療費用助成の対象年齢制限について、緩和されると良い。

(3-3 子育て支援)

- ・すくっとの一時預かりは、一ヶ月前に予約をする定めであるが、それでは利用しづらい。また、予約枠が少ない。そして、預かり時間について、現状よりも長くしてほしい。

4 地域の魅力・住み良さの向上

(4-1 市街地の活性化)

- ・「民間宅地開発の支援」について、具体的な予定があるのか、どのような支援をするのか。
- ・「自転車周遊ルート」について、健康の面でも非常に賛同できる。是非とも周遊以外の移動ルートも充実させ、通勤・通学に使用できる安心・安全な自転車ルートの整備を検討いただきたい。

(4-4 戦略的なシティセールス)

- ・「大型商業施設との連携事業」の説明文について、大型商業施設は市内か市外なのか、もしくは両方であるかを明記した方が良い。

(4-6 地域医療体制の維持・継続(地域医療))

- ・田原市赤羽根診療所を除く 27 の市内無床診療所の内、約半数の 14 の医院は、渥美病院出身者が占める。勤務先病院退職後、その近くで開業することは、医師にとってはよくあることである。近年、渥美病院の医師数は減少傾向にある。そのことは、市内での新規医院開業も減ることにつながると思う。市内の診療所数の増減は、渥美病院の充実度にかかっていると言っても過言ではない。渥美病院勤務の意志を持つ医学生への、医師確保就学資金の貸与が、将来大きな実を結ぶことを心より祈る。

地域再生『先駆的な温泉形態の「伊良湖温泉」で地域の資源・くらしに新たな価値を創造する渥美半島ブランド力向上プロジェクト』(2022 年度～2024 年度)

- ・「ウェルネスツーリズム」の定義について、注釈を付けてはどうか。

参考資料 令和 3 年度(12 月末時点)実績値の要因及び今後の取組方針について

1 雇用の創出・就労促進

(1-1 創業支援)

- ・今後の取組方針について、「with コロナ、after コロナを見据え、生活様式の変化やデジタル化に対応した、新たな事業を始める創業者等を支援する」といったことを、記載すると良い。

(1-2 企業立地の推進・三河港の振興)

- ・今後の取組方針について、「渥美半島道路」が、国の「新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画」と「愛知県・名古屋市における新広域道路交通計画」に掲載されていることから、「渥美半島道路の早期実現」も加えたらどうか。

その他

- ・「4 月より伊良湖温泉の配湯が開始されたこと」、「コロナ禍の影響もあってクリスタルポルトが休館していたが、田原市が買い取りリニューアルオープンをする予定であること」、「福江市街地の再開発も、少しずつではあるが前に進んでいること」、以上 3 項目を渥美地域の魅力づくりの土台として、田舎でも住み良い所だと、しっかりと提案していきたい。
- ・勉強になることばかりであった。コミ会長としてもっと早く知っておきたかったと思う。毎月のコミの定例理事会では時間がかかる。コミ会長 20 名だけの学習会があるとよいと思う。

- ・終わりの見えないWith コロナの生活や高齢化が進む中、リモート出勤、仕事と育児・介護の両立、外国人労働者、障害のある方など、様々な働き方の変化や労働者も多様化していくなか、定住・移住の観点においても、変化する「ひと・しごと」に対し、「まち」への要望や生活面での困り事が、画一的では無くなってきていると思うが、引き続き地域とのタイムリーな対話を軸に戦略のご検討をお願いしたい。今後も微力ながら可能な範囲で丁寧に声を拾いながら、働く者の視点から声を届けさせていただくので、先日回答をいただいた豊橋地協の「政策(重点)要望」内容の前向きな推進も合わせ、引き続きの連携をお願いしたい。
- ・国際交流の観点からは特段取り上げることはないのですが、最近目にしたことから意見を述べたいと思う。「YAROMAI」さんが行った図書館のイベントにて、中高生にアンケートを取った。その結果、「幼い子どもや大人を対象にした施設はあるが、学生がゆったりと時間を過せる施設がない」と答えていた。「児童施設では、居づらいし、大人向けではお金が必要、居場所が無いよね」と。そして、「田原市には不満は無いが、将来は出て行きたいと思っている」と。サーフタウンや温泉など、外からのお客については、とても時間やお金をかけて議論がされているが、これから先、田原市を支えて行ってほしい若者が、「出て行きたい」、「魅力が無い」と思っていることへは、相変わらず改善が見られないとつくづく思う。全国には「子育てがしやすい」、「若者が戻って来る」といったことに成功している自治体がたくさんある。その土地ごとの魅力や問題、行政的な難しさは当然あると思うが、田原市はとても住みやすい街であると、私個人としては常々感じている。「分かりやすく、魅力があって、未来が期待できる」若者にとってそう思える街に、どんどんなっていってほしいと思う。